

## 退職給付会計の今後

～IASB 基準案の動向に注目～

### IASB の公開草案に対する反対意見

IASB（国際会計基準審議会）が、年金費用の即時認識をも盛り込んだ「従業員給付会計 IAS19 号」（退職給付会計）の改定公開草案を発表したのは、2010 年 4 月でした。IASB はこれをベースに、2011 年第 1 四半期中に基準書案を策定し年央に確定することを目指していますが、延期も予想されます。

今般の即時認識への統一を求める公開草案に対しては、主に年金基金筋から反対の意見が出ています。IASB が求める即時認識一本での評価となれば、企業財務の変動を大きくして、確定的な退職年金を支給できなくなるおそれがある、というものです。

### 資産評価のフェアバリュースは適正か

退職給付会計において遅延認識ができなくなるとすると、数理計算上の差異が P/L ダイレクトではなくその他の包括利益に計上されるとはいえ、財務諸表に大きな影響を与えることが懸念されます。

年金資産の評価には、市場状況がいかにあっても評価時の上場証券の市場価格を使うのは、年金基金の長期的性格を考えれば適切ではない。配当・収益ディスカウントモデル等の長期フェアバリュー（公正価値）を使うべきだ、という意見もあります。

### IASB の精神

IASB は、わかりにくい年金会計を投資家にわかりやすいように、また企業間の比較がしやすいように、より公正で透明性の高い会計基準を作成することを目指しています。この根本精神が揺らぐことはないでしょうが、「企業会計は投資家だけのものではない。」という意見にどう耳を傾けるのか、基準案の動向に注目されます。